

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

<先週の説教から>

『ルカ ④ — その人は身を起して立った!』

武田真治牧師

イザヤ書 58:11~14 ルカ福音書 6:6~11

イエス様がよいは伝道へと歩み出された際に、最初にイエス様が神の子だと気が付いたのは悪魔でした。イエス様のことが公になる前につぶしてしまおうと考えたのが《荒野の誘惑》でした。その次に目ざとく注目したのが「ユダヤ教の律法学者やファリサイ派の人たち」でした。彼らはイエス様のうわさを聞きつけ、わざわざエルサレムから駆け付け、吟味と批判をし始めます。それが5章17節から、なんと5回もイエス様と弟子たちに議論を吹っ掛けています。その際、最も議論になったのが“安息日問題”でした。まさに今日の箇所がそうです。即ち「(彼らは) 訴える口実を見つけようとして、イエスが安息日に病気をいやされるかどうか、注目していた」のです。もちろん、イエス様はその「彼らの考えを見抜いた」上で、尚も癒しを押し進められます。「手が萎えた人に、『立って、真ん中に出なさい』と言われ、「彼ら一同を見回して、その人に『手を伸ばしなさい』と言われた」のです。そして、その人が「言われたようにすると、手は元どおりになった」のです。その時、教えられた言葉が『あなたたちに尋ねたい。安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、滅ぼすことか。』だったのです。

先ず、この御言葉で前提となっているのは“安息日でも赦されている行為があるでしょう”という点です。実際、緊急の場合(出産とか災害など)に安息日でも仕事をする事は許されていました。しかもそれはイエス様が言われる通りに『命を救うための行為であり、善を行うこと』でした。この点を強調しておられるのは、当時のユダヤ教の律法学者やファリサイ派の人たちが必死になって、何としても仕事をしない=仕事を休むことばかりを守っていた状況に対して、それでは安息日の本当の守り方にはならないと指摘されておられるのです。

旧約聖書の出エジプト記23章12節には、安息日に仕事を休むのは「元気を回復するためである」とあります。まさにイエス様はここで、手が不自由な人のその手を“癒される”こ

とを通して、この人に“生きる力=元気”を取り戻されたと言い得ます。しかもその際に『立って、真ん中に出なさい』と言われているのも“人々の前で”癒されることで、これからは「堂々と生きて行きなさいよ」と新しい生き方をその人に与えようとしておられるように思えます。

このイエス様の“安息日に対する考え方の違い”によって、その後のユダヤ教とキリスト教が、まさに大きく分かれて行く原因にもなって行きます。キリスト教は仕事を休むだけでなく、その日に《癒しと元気を取り戻す》ことが大事だとされ、そのためにも《礼拝》を献げるように変わって行きます。イエス様が“復活”された日(=日曜日)に変わったのも《新しい命》に生きようになるためです。主日の礼拝でこそ、神様が私たちを創り、罪を赦し、今も導いておられることを確認し、主を賛美して“生きる力=聖霊”を注いで頂くように願うのです!

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 5月14日(水) 20:00

II. 5月15日(木) 10:30

聖書研究: ローマの信徒への手紙

祈祷主題: 関東教区総会覚えて

担当者: (水) 茨木 (木) 佐々木

祈りに覚える人: 中村さん 奈良さん

ハンナの会: 5月13日(火) 10:00~

【教勢報告】

主日礼拝 男18 女47 計65

祈祷会 I. 男4 女2 計6 II. 男1 女8 計9

日曜学校 幼稚科3 小中科5 計8

【次週主日礼拝】 5月18日(日)

聖書: イザヤ書 43:8~12

ルカによる福音書 6:12~16

説教: 「ルカ④—12弟子を選ばれる!」

武田真治牧師

讃美歌: 17(1)、32、534、58、564、88(1)

【次週当番表】

司式: 金刺長老 奏楽: 村上 礼拝: 金刺長老

献金: 兼川 金刺 受付: 飯島 吉岡

会堂準備: 木村 小杉 冨澤 長田

橋本 北條

看板: 曾我 週報: 吉岡 お花: 羽倉

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・日曜学校教師会

・幼稚園理事会 ・オリブの葉編集委員会

・聖歌隊練習

2025年 5月 11日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>